望んでたモノ

有都里

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
望んでたモノ

【Ｎコード】
Ｎ２６７１Ｙ

【作者名】
有都里

【あらすじ】
場所は某漫画。

しかし監視者は、某漫画の・・・？

「うッ……」
「目が覚めた？　急で悪いんだけど、貴方……、」
ここは、何処だ？
「入隊、してくれないかしら？」

「……にゅう、たい？」聞き返すしかあるまい。軍隊か何かだろうか。しかし見れば相手は女。周りは学校の一室、保健室の様だ。女の年は自分とあまり変わらない。そんな女の口から出てきた言葉が……、入隊？
「そう入隊。ＳＳＳのね」
「ＳＳＳ……」
「貴方さっきからあたしの言ったことを繰り返すばっかり。さ、答えていただきましょうか？　消えるの？それとも入隊？」
「ちょっと待った！　何で入隊しないと消えるんだ！　貴様は神か！」
「ハ？　神ィ？　神様なんかと一緒にしないで頂戴。私たちＳＳＳはね、その神に抗う組織なのよ。解る？　戦うのよ！」
「まくし立てるな！　っていうか誰なんだ貴様は！」
「そういえばまだ自己紹介してなかったわね。じゃあ、貴方からしてもらいましょうか、お名前は？」
ケロリと言い放つこの女。少し苦手だ……。
「俺は、野田……、だ」
「そう。あたしはゆり。このＳＳＳのリーダーよ。これからよろしく野田君」
「ちょっと待て！　俺は入るなんて一言も……」
「お互いに自己紹介したんだからもう決定よ。ハイ決定―、ハイよろしくー。日向君、何分だった？」

「1分2秒。鬼だな……ゆりっぺ」
「さすがだね、ゆりっぺ！」
どこからともなく現れたこいつらは誰なんだ……。
「紹介するわ。この時間測ってたのは日向君。こっちの特徴がない方が大山君」
「あい、よろしくー」
「酷いよゆりっぺ……。よろしく、えっと野田君？　だっけ？」
「野田だ。しかし俺は貴様らと馴れ合うつもりは、ない！」
言い放ってやった。保健室を飛び出す。後ろから声が聞こえるが、知ったことか。

とりあえず外に出てみた。大きな学校らしい。
あんな怪しい奴の仲間になんかなるものか。ここが日本のどこかも解らんのに。
とりあえず事情が解る大人を探して……、「何をしているの」
「あぁ？」とは言ったものの、目の前のこいつは、全く怯えていない。さっきの女……、じゃない。あいつとは正反対イメージの女子。
「誰なんだ貴様は？　あいつらが言っていた神様とやらか？　あ？」
「違うわ。……貴方は新しく来た人ね。なら色々教えてあげないと」
「何を教えるって？　ここから出る方法か？　それとも神を殺す方法か？」
「……混乱しているのね。簡単に説明すると、ここは死後の世界よ」
……死、後？　死後の世界だって？　ハッ、確かに俺は死んだ。あぁ、覚えてるさ。だが死んだら何故学校にたどり着くんだ。学校は地獄であることには同意するが。
「記憶喪失とかじゃなさそうね」
「そんな説明よりも、だ。貴様は誰だと言っているだろうが」
「生徒会長」
「そうか。やはり生徒会長……、って生徒会長？」え？　まさかの？

「授業に出なさい。来たばかりとはいえ、貴方はここの生徒。出ないのならば武力行使しかないのだけれど」
「貴様のような女が武力行使だと？　笑わせるな。出来るものならやってみるがいい。こんな気味悪い世界の学校などッ……」あれ？
血、が？　あれ、音なんてしなかった、筈……。
「痛ぅッ……！」
「武力行使よ」
気絶する前の会長の顔は冷たかった。
……冷たく、ひどく鋭利で、まるで……その腕の、

「はッッ！！」
「目が覚めた？」
時間が巻き戻ったように感じた。またあの苦痛を感じるなんてまっぴら御免だと思ったが、そんなことではないらしい。
「ゆりっぺ……？」だったよな、確か。
「ッ、どいつもこいつもッ……」
な、何だ？　逆鱗か？　逆鱗に触れたのか？　俺は別にただ名前を呼んだだけで。
「日向君ッ！　あなたのせいであたしの渾名がゆりっぺに定着しそうじゃない！　どうしてくれんのよ！」獣の様だ……。
「ええっ、いいじゃないかよー、ゆりっぺ。なぁ？」
「良くないっ！　野田君も何か言ってやって！」
「……いいと、思うが……」

「「「……」」」
何だ、この沈黙は……。
「ぷ、ハッハハハッッ！　ほらなゆりっぺ。新人にも好印象だ」
「おっ前らー……！」
「ま、まぁまぁ、ゆりっぺ。とりあえず今日は入隊だけでも決まっ

たんだから、野田君にはゆっくりさせてあげようよ」
「貴様らの中で俺の入隊は決まっていたのか……」
「当たり前よ。戦うんだから人数は多いほうがいいわ。文句があるのならこの日向君によろしく」
「ええっ！　何でだよ！」
「男だからよ」
「何言ってんだ、ゆりっぺの方が断然「あ、あ、あぁ、ん？」「マジすいませんでした」
「……」面白い奴らだ。こんな、仲間が欲しかったんだな……俺は。
「どうしたの？」
「いや、なんでもない。こ…、」
「「「こ？」」」
「これから……、よろしく…」
三人が微笑む。それぞれが持つ微笑み方はまるで違くて。
「「「よろしく！」」」
まだまだ見ていたいと思った。そんな入隊初日だった。

――同時刻、この世界のどこか――
「まぁ、初日はこんなものよね「これから始まるのか……「楽しみ楽しみぃ「アンタ達、ふざけてないできちんと観てるのよ「るせぇ、叔母さん「何ですって！？「ま、まぁまぁ「これから恋に落ちるのかー「男って簡単でぇ、「単純なのねぇ「なぁ、定刻だぞ？「それじゃあ、そろそろ始動しますかー」
「「「煉獄ならぬ、恋獄の七姉妹ここに！！」」」

（後書き）

はいスイマセン。

組み合わせる必要のないモノどうしを組み合わせてしまった俺乙！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2671y/

望んでたモノ

2011年11月6日02時08分発行